

	内容別・課題別の課題分析（知識、技能）	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	- 音読する際に言葉のまとまりを考えながら読むことに課題がある児童が多い。 「書く」活動において、思ったことや考えたことを書くことが苦手の児童が多い。また促音や拗音の表記等の誤字・脱字が多い。 - 既習漢字を正しく使用できない児童が多い。	- 教材の音読で繰り返し練習する時間を確保したり評価したりして音読の上達を実感させる。宿題など家庭学習として毎日音読する機会を設ける。 - 教材文について自分の思いや考えを書く際は、ひな型や手本を示したりスモールステップで書かせたりして、書くことへの苦手意識を減らしながら取り組ませる。「はじめ・中・おわり」といった構成や、順序を表す言葉など、文章を書く上でのポイントを提示する。 - 特殊音節のワークと音の動作化に取り組ませ、正しく書けるようにしていく。 - 既習漢字の学習は、漢字ドリルやキュービナ等を活用し、日々の学習の中で正しく使えるように促していく。	
算数	- 数の構成、数の相対的な大きさについての理解、3位数、2位数の加法及び減法の計算ができていない児童が多い。単位忘れも多い。 - 時刻の読み取り、時間の計算が苦手の児童が多い。 - 物差しを使った長さの計測や直線を引くことが十分にできない児童が多い。	- 習熟度別グループでの授業を行い、児童の実態を把握し、児童に合わせた課題を設定する。 - 授業の冒頭に短時間活動を取り入れ、10の構成や1桁、2桁の加法・減法の計算に繰り返し取り組む。 「あと何分経ったら、〇〇」「●時〇分に～をする。」など生活の中で、意図的に時刻と時間を活用する。 - 朝学習等でキュービナを活用し、時間と時刻の読み取り・計算練習に繰り返しに取り組ませる。 - 筆算の際に物差しを使って線を引く、教科書に物差しを使って線を引くなど、算数の時間以外にも、物差しを活用する場面を設けて、物差しに慣れさせる。	
生活	観察の学習（野菜・身近な生き物）や学校探検の学習では、興味関心をもって取り組んでいるものの、気付いたことを言葉で表現したり、関連付けて考えたりすることが苦手の児童がいる。	- 観察の学習では、ひな型や手本を示したり観察の観点を示したりして、スムーズに活動できるようにする。 - 自分が気付いたことをグループや学級全体に伝える活動を取り入れ、さらに学習内容を深められるようにする。 - ロイロノート等を活用して互いの学習カードを見合い、良さに気づき自分の学習に生かせるようにする。	
音楽	- 歌唱では、意欲的に声を出せるが互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせられるとよい。 - 器楽では、楽器の音色や奏法に気を付けて演奏できるようにする必要がある。 - 鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見だしながら聴くことができる。一人一人が曲の特徴などを捉え、身体表現や言語表現ができるとよい。	- 少人数で歌う場面を設けてお互いに聴き合ったり、曲想や歌詞の内容を捉えさせどのように歌うかについて意見交流をしたりする。 - 様々な楽器に触れて色々な音を出す体験をさせ、それぞれの楽器がもつ固有の音色の良さや面白さに気付くようにする。 - 感じたことを安心して自由に表現できる環境を整える。表現できたことやよいものを全体で共有し、評価する。	
図工	- 基本的な用具の使い方が分からない児童がいる。 - 表現したいことが表せず、苦手意識をもっている児童がいる。	- 基本的な材料・用具の使い方など動画や板書などを活用し、視覚的に分かりやすく伝えて定着を図る。参考作品を授業の始めに提示し、イメージ・見通しをもちながら工夫して表せる環境をつくる。 - 机間指導でつまずきのある児童を把握し、話を聞きながら選択肢を提示する。学級全体でできたことやその児童のアイディアを共有し、自信をもたせる。	
体育	- 友達の良い所を見付け、真似することができる。よりよい動きを工夫することが十分ではない。 - 体ほぐし・体づくり運動や、跳び箱や鉄棒等の運動器具を使用した技能において、個人差が大きい。	- 全体で、児童のよい所を共有して、その良さに気付かせ、認め合う雰囲気作りを行う。 - ゲームなどの場面では、より活発に楽しく行うためにはどうすればいいか、よい方法を工夫させるなど、児童同士で話し合う場面を意図的に作るようにする。 - 活動の流れや活動の仕方を図や動画で示すなどして見通しをもたせる。できたことや挑戦したことを価値付け、技術の習得や技能の向上に前向きに取り組めるようにする。ICTを活用して自己の動きを振り返ることができるようにする。	